

■ ■ ■ はじめに ■ ■ ■

ITテクノロジーの目覚ましい躍進やグローバル化の波など、近年ではこの時代背景とも言うべき環境は急激な変化を見せています。これまで当たり前と考えられてきたような働き方やスキルも時代に合わせ、変化が求められています。

これまでの時代においても、その時々により重要とされるスキルはあったでしょう。

例えばかつて、移動手段は馬が当たり前の時代がありました。しかし車の登場により、乗馬スキルは移動の技術から趣味やスポーツの世界のものになってしまいました。これは算盤とコンピューターの関係で考えると、より実感を持てるかもしれません。

個別の技術ももちろん大切ですが、このように過去には必須とも思えた技術が現代においては別の技術に置き換わってしまう例は枚挙に暇がありません。

本プログラムではそういった時代背景を踏まえ、どんなビジネスパーソンにとっても時代や環境を超えて求められるスキルを見直し、いつでも、どこでも、だれからでも必要とされるビジネスパーソンになるために、持ち運べるスキル『ポータブルスキル』24個を把握し、トレーニングを行うことを目的としています。

1巻目では時代背景と今、なぜポータブルスキルが必要かを学び、ビジネスシーンにおける重要な8のマインドに焦点を当て、2巻目では16の能力を中心に学習します。ワークブックでは学習内容を実践的にトレーニングするケーススタディを掲載しています。

このポータブルスキル24での学習を通じて、あなたのビジネスライフが業界や業種、特定の業務や働き方に制限されず、時代を超えて豊かなものになることを心より祈念しています。

CONTENTS

ポータブルスキル24

vol.1 8のマインド編

第1章 今、なぜ「ポータブルスキル」なのか？

Lesson 1	「コンセプト」を理解する	10
Lesson 2	「環境依存度」をチェックする	14
Lesson 3	「これからの時代」の学習法	18
Lesson 4	「強み」の重要性・考え方・作り方	22
Lesson 5	「組み合わせ」で考える	26

第2章 8の mindset 編

Lesson 1	イノベーションマインド	36
Column 1	保守/同質化	41
Lesson 2	チャレンジ精神	42
Column 2	安定志向	47
Lesson 3	柔軟性	48
Column 3	一貫性	53
Lesson 4	主体性	54
Column 4	従属/支援	59
Lesson 5	規律性	60
Column 5	奔放/型破り	65
Lesson 6	競争性	66
Column 6	非競争	71
Lesson 7	持続性	72
Column 7	一過性/瞬間/瞬発力	77
Lesson 8	協調性	78
Column 8	自己主張	83

ポータブルスキル 24 の構成

■ポータブルスキル 24 の構成

本プログラムはテキストブック 2 冊、ワークブック 1 冊の構成となっており、1 か月目にテキストブック 1 巻、2 か月目にテキストブック 2 巻、3 か月目にワークブックに取り組む想定となります。

■各 Lesson の構成

本プログラムで扱う 24 のスキルについては以下の流れで学習します。

STEP①: まずは知ろう!

学習するスキルがどのようなものか解説します。本プログラム上での定義にもなるため、知っている言葉であっても必ず目を通しましょう。

STEP②: どんなときに役立つ?

学習するスキルが現実のビジネスシーンでどう役立つかを示します。自分の仕事場面と照らし合わせ、活用のイメージを持ちましょう。

STEP③: 自己鍛錬のための 3 箇条

学習するスキルの鍛錬方法を示します。どんなスキルか知り、役立つ場面のイメージを持ったら、あとは鍛錬です。ここで示された鍛錬方法を、自分の職場、生活に必ず落とし込みましょう。

Let's Practice!

学習内容の振り返りです。学習内容を振り返りつつ、出題された設問に対して回答を作り、理解を深めましょう。

1 学習スケジュールを立てる

テキストの学習をはじめめる前に、講座全体の学習スケジュールと、各 Lesson の学習予定日を決めましょう。各章の扉ページには、Lesson ごとの学習予定日を記入する欄がありますので、ここに記入しておきます。

2 各単元の学習を行う

事前に立てたスケジュールに沿って、無理のないペースで学習を進めていきましょう。テキストは全 2 章で構成されています。1 章の学習後には WEB の診断テスト Pazz にトライし、自分の長所 / 短所を把握しましょう。2 章では Lesson ごとに「STEP①: まずは知ろう!」「STEP②: どんなどきに役立つ?」「STEP③: 自己鍛錬のための 3 箇条」に分かれています。Lesson で学習した内容の理解度を深めるために、各 Lesson 末尾に掲載の「Let's Practice!」にも取り組みましょう。

1 章を学習



Pazz にトライ



2 章を学習

3 添削課題を提出する

各単元のテキスト学習が終了したら、添削課題に取り組みます。まずはじめは、テキストを見ずに取り組んでみましょう。わからない部分については、テキストを読み返しながら、回答を記入してください。すべての設問に回答し終わったら、期日までに提出してください。

今、なぜ「ポータブルスキル」なのか？

▶ この章のポイント

この章はこれからのポータブルスキルの学習に向けた動機付けの役割を持っています。なぜポータブルスキルを学ぶ必要があるのかを、時代背景の変化という観点、求められるスキルが変化してきているという観点、強みを持つことの重要性から解説します。簡単なチェックシートや診断テストを交えて、取り巻く環境と自分自身を改めて見直しましょう。

▶ 学習スケジュール

	予定日	実施日		予定日	実施日
Lesson 1	/	/	Lesson 4	/	/
Lesson 2	/	/	Lesson 5	/	/
Lesson 3	/	/			

「ポータブルスキル」を理解するための5つのポイント

- ①「コンセプト」を理解する
- ②「環境依存度」をチェックする
- ③「これからの時代」の学習法
- ④「強み」の重要性・考え方・作り方
- ⑤「組み合わせ」で考える



1. 「時代背景」の変化

いつの時代と比較するのが適切なのかわかりません。ですが、21世紀になってからの20年ほどを取り出してみても、時代は大きく変化しているということが出来ます。政府が多様な人材の活用を力強く推進し、単なる過重労働の防止にはとどまらない、個人の価値観の多様化に合わせた、「働き方の多様化」を実現しようとしています。20世紀末から胎動したIT革命はさらに発展を続け、いまやAIをはじめとする最先端のテクノロジーが、私たちのビジネスの場面へと大々的に進出してこようとしています。一部の企業において見られる過重労働の問題も、こうした流れに拍車をかけています。将来的な人口減少に伴う外国人労働者の増加という問題も考え合わせると、各人が時代に合った働き方を求めていくことは、必須の課題といってよいでしょう。かつて、「企業戦士」、「24時間戦えますか？」といったフレーズが普通に語られる時代がありました。それほど昔のことではありませんが、現在の状況を思うと隔世の感があります。「時代背景」は大きく、そして激しく変化しています。そのことを正しく受け止めなければ、このような変化の流れから確実に取り残されてしまいます。

たとえば、AIがあなたの職場を大胆に侵食し、多くの業務や職種が消えてしまう可能性もあるでしょう。そうした状況をしなやかに生き延びること。それがまさに、現代のビジネス・パーソンに与えられたもっとも重要な課題なのです。どれだけ「機械」が増えたところで、それを動かす「人」がなくなることはありません。むしろAI全盛の時代が訪れるからこそ、「人」がどのように働くかが重要になってきます。多くの企業では「自律型人材」＝「自ら考え、行動し、そして成果を生み出すことのできる人材」の重要性が叫ばれはじめています。大きな時代の変化のうねりのなかで、自分の働き方を自らの意志で決め

ていく。そんな姿勢が何より大切なのだということです。技術革新の荒波と正面から向き合い、それらをどのように乗りこなしていくのか、あるいは、あえなく飲み込まれてしまうのか。現在の私たちが立っているのは、明らかにひとつの「岐路」であると理解することができます。時代を超えて必要とされるビジネス・パーソンであり続けるのか、それとも、機械に「使われる」ような生き方を選択するのか。みなさんが目指すべきは明らかに前者です。現在の環境から離れたとしても、自信を持って勝負することのできる真の意味での実力。そうした実力を作り上げるだけの十分なスキル。それらをしっかりと身につけることによって、この先の進路を誤ることなく進んでいけます。「ピンチはチャンス」。それは今の時代にもっとも当てはまる言葉かもしれません。

2. 「働き方」の多様化

「多様な働き方」という精神面での変革、そして「テクノロジー革命」という物質面での変革が重なり合って進行し、ビジネス・シーンに大きな変革の波をもたらしました。そのことは先に確認したとおりです。ここでは、前者が意味する「働き方」の多様化について、さらに深く掘り下げていきたいと思います。ひと言で「多様化」といっても、そこにはさまざまな考え方や見方があります。AIとの関係に着目すれば、これもすでに触れたように、技術を使いこなすのか、それとも技術に使われるのか、という軸が浮かび上がってきます。他方、「女性の活躍推進」といった観点を絡めて見てみると、子育てするママにやさしい働き方、リモートワークの推進、長時間労働をしなくても昇進していける仕組みづくり、などという別の軸の存在を、そこに見て取ることができます。戦後の「高度経済成長」の頃のように、誰もが同じ働き方を志向する時代は終わりを告げました。そうした時代において、幸福とはおおむね裕福と同じ意味でしたが、現代では「幸せ」にも多様な意味が与えられています。まさに、個々人の考える「幸せ」の意味も多様化しているということです。

こうした時代にあって、ビジネス・パーソンにとっての課題は、どんな働き方を、どんな理由にもとづいて選択していくのか、という形に整理することができます。どんな気持ちで仕事と向き合っていくのか。それが自分の「幸せ」とどのように関わっているのか。人生の「幸せ」の意味を理解し、そこへ近づく手段のひとつとして仕事を捉えているのか。何だか大げさに響くかもしれませんが、まさに自律した人材として、それらを選択してい

くことが「働き方」の多様化の基礎を形成します。そして、これをさらに拡げていくと、自分自身の成長もまた自分の意志で実現していかなければならない。そのようにいうことができます。もちろん、会社も一定の成長の機会を提供してくれます。問題はそうした機会をどのように活用するのかという点です。会社が提供する機会とは、いわば「骨格」のようなものです。そこに「筋肉」を増やし、温かい「血液」を流し込んでいくこと。後者は明らかに、自分の意志による努力の領域です。継続的に自己学習を重ね、ビジネス・パーソンとしての地力をしっかりと蓄えていくこと。どんな時代でも通用する、どんな「働き方」でも選択できる、そんな可能性を拡大していくことが、ひとつの答えになると考えています。努力した人と、そうでない人との間には大きな差が生まれます。これからの時代は、そうした差がいつそう大きくなりやすい時代であるといえます。「高度経済成長」の時代は、社員の間の実力差はあまり目立たなかったのかもしれませんが。それだけ社会に余裕があったのかもしれませんが。しかし、今後そのような余裕を感じられる可能性は決して高いとはいえません。そのための十分な備えが、今まさに必要とされているのです。

求める成長の機会も、成長の仕方も、目指すべき成長のレベルも、すべてが人それぞれ。そんな時代が到来しました。本プログラムでは、テキストを手にとっていただいたみなさんに、それぞれに「幸せ」なビジネス人生を送っていただきたいと考えています。自分にとって、何が真に必要なスキルであるのか。そのことをしっかり意識して、ご自身のスキルアップに邁進してください。全員のゴールが「同じ」でなくてもよい。「違い」があることがむしろ健全なのです。さらにいえば、それこそが、「多様化」ということの本当の意味なのです。みなさん一人ひとりにとって、真に必要な学びがこの先に広がっています。

3. 企業や業種・職種に「依存しない」スキルの必要性

時代背景の変化や働き方の多様化に対して動じることのないビジネス・スキルの必要性。それを別の言葉で表すならば、特定の企業や業種・業態に「依存しない」スキルが必要だということになります。私たちは、知らず知らずのうちに、その会社、その部門、ないしは、その立場でしか通用しないスキルを身につけ、しかも、そのことに気づかないまま、多くの日々を過ごします。社内用語が一般的なものだと思えるようになり、一歩外に踏み出せば、まったく違う可能性が存在することに対して鈍感になります。資料ひとつを作るやり方を例にとっても、Excelなど多くのツールの活用方法はまったく一様ではあり

ません。自分のやっていることだけが正しい、ないしは、最適であるというという誤解。そうした誤解が、多くの成長の機会を奪ってしまう残念な結果へとつながっています。「会社の常識、社会の非常識」などという言葉も存在しますが、それは経験的にはかなりの面で真実です。そんな残念な状況を少しでも減らしていかなければなりません。

会社や業種・職種といった「環境」に左右されないスキル。極端ないい方をすれば、明日突然役割が変わっても、所属する部門が変わっても、さらには会社が変わっても、普遍的に発揮することのできるスキルこそが、これからのビジネス・パーソンには強く求められます。そのような問題意識から、ここでは、ビジネス・パーソンに必要なスキルを、8つの性質と16の力、合計24の個別のスキルに整理・体系化し、「ポータブルスキル」と名づけました。「ポータブル」とは、いつ、どこにでも、持ち運びができるということ。まさに、すべての役割に、すべてのポジションに、あるいは業種や職種に、さらには企業に、持ち運び可能なスキルという意味を込めて、この名前を選択しました。これらを身につけることで、誰もがどこでも「戦力」になることができます。さまざまな「環境」という制約から離れてもなお必要とされる能力。ないしは、今を生きるすべてのビジネス・パーソンに求められる能力、それこそが「ポータブルスキル」なのだということができます。

無論、このようなスキルは過去からも大切だといわれてきました。しかしながら、時代の変化や働き方の多様化によって、その重要性は今まで以上に、はるかに、増してきているとあって差し支えありません。たとえば、会社に特有のスキル、特定の業種や職種にしか適用できないスキルというものは、実際にはあまり「応用」を必要としないケースが多く、したがって、テクノロジーに代替される可能性をたぶんに含んでいます。特殊＝人間だけができるということではありません。応用の可能性によってそれは決まります。特定の環境に依存しているスキルからは、そうした応用の可能性がどんどん失われていきます。それらの事態を回避するためのスキル、まさにどんなビジネスの場面にも応用可能なスキルとして、この「ポータブルスキル」を捉えていただければ幸いです。すべてのスキルは日々の地道な鍛錬によって身につきます。まさに努力の差が結果に直結するわけです。そのうえ、いったん身についたスキルは一生離れることがありません。そう考えれば、日々の鍛錬にもたしかかな目標が生まれます。そうした点も含めて、しっかりと「コンセプト」を理解し、これからの船出に備えてください。

Lesson 2

「環境依存度」をチェックする

役割、職場、部門、会社、業界、そうした特定の「環境」に依存することのないスキルが必要なのだと繰り返し述べてきました。それらを身につけるためには、今の自分のスキルが一体どのような状況に置かれているのかを、できるだけ客観的に把握する必要があります。ないしは、あなたのスキルがどれだけ環境に依存しているのか、という問いかけから始める必要があります。そのために、ここでは、①「環境依存度」とは何かを理解する、②実際に「簡易チェック」してみる、そして、③「汎用性」を身につけていくために、という3つの観点を用意しました。以下、順番に内容を確認していきましょう。

1. 「環境依存度」について考える

売上データの処理スピードや正確さなら誰にも負けない、ないしは、大得意先の部長とは歴代の営業担当者のなかで自分が一番うまく付き合っている。そんな思いをふと心に抱く瞬間が、誰にも少なからずあるのではないのでしょうか。無論、そのこと自体は事実であると考えてよいでしょう。しかしながら、ここで考えなければならないのは、そうしたスキルがどのように獲得され、なぜ発揮できているのか、という問題です。本質的な能力が高いことも、もちろんそうした理由のひとつに数えることができます。他方、長い経験によって今のスキルが身についた、あるいは、たまたま大得意先の部長とウマがあう、などといった理由についても、ほとんど同じだけの確率で考えることができます。後者のようなスキルの発揮について、それを真の実力に根差したものと見なすことは明らかに適切ではありません。経験や偶然。同じことをずっと続けていけば、ほとんどの人ができるようになる。そして、気の合う相手がたまたま取引先にいれば、ほとんどの仕事が上手く運ぶ。もちろん、ビジネスにはそのような要素も間違いなく必要です。しかし、それらを自分のスキルと見なすことはできません。それらは「環境」に大きく依存しており、「環境」が変われば、すぐに通用しなくなるからです。

こうした「環境」に依存しているスキルが、実際にどれだけ依存しているのかを測定する尺度が必要です。そのような尺度がなければ、真に必要なスキルへの道がいつまでたってもスタートしないからです。そこで、依存の度合いを表すものとして、「環境依存度」という言葉を使うことにしました。この度合いが高ければ高いほど、スキルの汎用性がどんどん低くなっていきます。だからこそ、自分の得意な仕事、そこで十分に発揮しているスキル、それらを可能なかぎり客観的に分析することが必要です。これまでの経験が一切